



第7回工科大祭が10月26日と27日に開催されました。26日の天気は良好でしたが、27日は今年度一番の強風でした。しかしながら、両日とも特に問題もなく盛況でした。終了直後、学生実行委員長の高橋奈津子さん（なっちゃん・右の写真のヴォーカル）に、工科大祭助言指導委員がインタビューしました。



7th NIIT Campus Festival

聞き手：無事終了しました。ご苦労様でした。

なっちゃん：後片付けがまだありますが、予定の企画は終了しました。これも、工科大祭に来ていただいた皆様や先生方や職員の方並びに実行委員と、多くの方々のご助力のおかげです。本当に感謝しています。

聞き手：24日にはNT21（新潟テレビ21）に実行委員が出演したり、25日には、市の中心地で動物の着ぐるみを身に付けて宣伝したそうですね。

なっちゃん：NT21には、2年生の実行委員に出演してもらいました。結構インパクトがありました。ただ、ビデオに撮るのを忘れました。

聞き手：ビデオは、職員の方に頼んで撮っておきました。

なっちゃん：本当ですか。よかった。それをホームページで見られるようにしてくれたらと思いますが。できれば、去年のもの。

聞き手：了解しました。それくらい事務局でできると思いますが。ところで、昨日は、天気もよかったですが、今日はあいにくの天気でしたね。その割りに多くの方に来ていただいたみたいですね。

なっちゃん：そうですね。人数の集計はまだしていませんが、ドラクドラゴンのおかげかもね。結構おもしろかったと思いませんか。

聞き手：私も講堂に行きましたが、おもしろかったです。200人以上いたようでした。

なっちゃん：今年は、当初からお笑い系と決めていましたが、あんなに多くの方が来てくれるとは思っていませんでした。会場は爆笑の渦でした。私達の司会もあれくらい盛り上げられたらと思いますが、それは、来年以降ということで。次回は今年の2年生を中心にがんばってもらいましょう。

聞き手：上手に引き継ぎをお願いします。それと後片付けの方も。

なっちゃん：わかりました。それでは。

（聞き手 物質生物システム工学科 助教授 小野寺正幸）

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/kokadaisai02.htm>〕

CONTENTS

- 2 学科紹介
- 3 学科紹介
- 4 課外海外研修
- 5 オープンキャンパス
一日体験入学
- 6 卒業生の職場を訪ねて
計算機実習室
- 7 公開講座
学会報告
- 8 初の博士号を授与
佐伯助教授が日本機械学会より表彰

学科紹介・建築学科

CAD/CGで創造力を養おう！

「うわっ、締め切り10分前だよ、間に合うのかっ!? 車! 車、用意しとけっ!!!」
「・・・もうすぐ印刷がおわりますっ!・・・OK、いってきまゝへす。」

先日の10月某日、柏崎市主催のアイディアコンペ『プロジェクト21』の最終報告書の締切の日。応募した建築学科の学生たちの様子です。最近はこの光景もめずらしくなくなりました。年間いくつもの設計コンペの案内が学科に届きますが、建築学科の学生たちはインスピレーションを得たテーマに想いを膨らませ、積極的に、そして果敢にアタックしています。コンペ締め切り間際になるたびに、北棟の3階フロアは大変にぎやかになります。

1年の前期から情報処理技術の習得を徹底させているのは他学科同様ですが、建築の学生たちはそれにあきたらず、近頃ではアルバイトをして購入したノートPCに自前のCADやCGをインストールして、『思考支援ツール』あるいは『デザインツール』として活用する学生が大変に増えてきています。VectorWorksやPhotoshop、あるいはExcelやPowerPointに向かって思考をぶつけていく方が、鉛筆で紙に一心不乱

にデッサンするより得意（というより気楽!）と考える学生は多いようです（私もです（笑））。また当学科では「建築CAD室」を運用し、高性能PCや最大B0判対応のプロッタなどを自由に利用できるようにしています。時間帯にかかわらず稼働率は大変高く、中には夜中に泊り込んで、PCにヘッドホンをつないで音楽を聞きながらCGレ



◆1 ユニバーサルデザインコンペ設計のネタ探しに学生たちと高知「よさこいピック」を視察、車椅子バスケットの華麗な技術にしばし感動…下には、自分たちで車椅子を体験の図、真夏で皆汗だく。こんなにも大変なものなのか。

ンダリングにいそむ学生も...

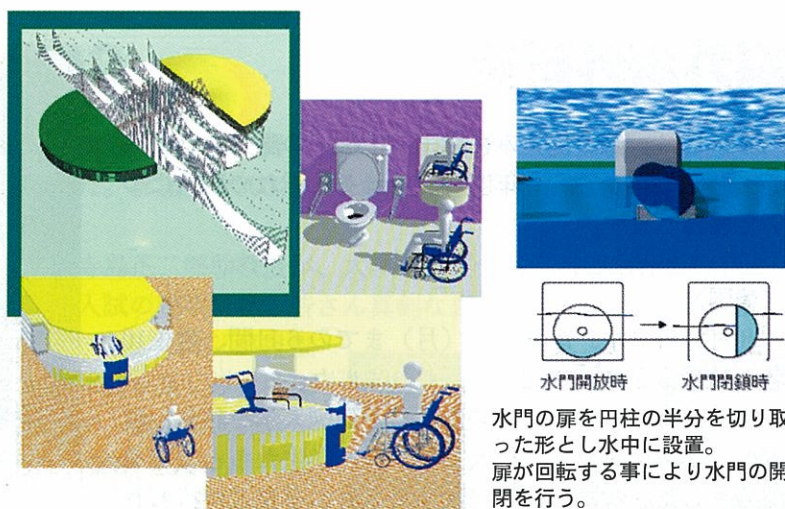
このような環境の中、4年生ともなると忙しい就職活動のかたわら一層コンペ応募に精を出す学生も増え、CAD/CGを用いた作品の量・質とも充実しています。昨年度には、建築作品というより技術提案に近い作品が「2001年度新潟産業大賞奨励賞」に選ばれたり、あるいは学科の枠を超えて他学科の先生方も含めて本気で議論を戦わせた結果が「2001年度しずおかユニバーサルデザインコンペ」の第一次審査に通過したり、と既存の考え方にとらわれないアイデアが認められるようになってきたことも、自由な活動をサポートする当学科の雰囲気をもたらした一つの成果ではないかと思えます。

当学科の4年生には毎年、6月、10月、1月と年間3回もの卒業研究発表会を課し、オリジナル提案を起こすための発想方法からプ



◆2 コンペ作品の制作風景をBSNが取材、思わぬデビューに皆、緊張も極大値をとる…終わって皆グロッキー。

レゼンテーション技術に至るまで徹底的に鍛えています。コンペ作品の入賞が増えてくるのも、ある意味当然のことかもしれませんが・・・いや、えらそうに書きましたが、日々の設計活動でPCに泣かされて小生に泣きついてくる(?)学生も多いのも事実。学生諸君、以下をしっかりと肝に銘じましょうね(笑)・・・コンピュータは、追い詰められると急に英語をしゃべりだす、そこで思考が止まるか、勘がはたらくか、の違いは大きい/Ctrl+C→Ctrl+Vを知っているか知らないかは、その人の現在と将来を決定づける/ファイルは必ず壊れる、ハードディスクは必ずクラッシュする、そして携帯は必ず固い地面に落とす/4回以上同じことを聞く人の上達は望めない/締め切りまぎわに、マインスイーパの面白さはピークに達する(「アーゴの法則」<http://www.asahi-net.or.jp/~LI6S-YSMR/>より。一部小生の経験で追加・改変。)



◆3 左は「2001年度しずおかユニバーサルデザインコンペ」応募作品、車椅子利用者にやさしい鉄道システムとは何か?をつきとめた一つの回答で、上図ではキオスクの売り子さんも車椅子。車椅子で働ける駅、とは学生ならではの発想だ。右は「2001年度新潟産業大賞奨励賞」を受賞。信濃川の水門を回転式にして船がスルーできるようにしたもの。いずれも既存の建築設計の枠組みにとられない発想力の賜物と思う。

建築学科 助教授 飯 野 秋 成

学科紹介・情報電子工学科

地域社会との関わりー柏崎市雪エネルギープロジェクト

昨年より雪の冷熱が太陽、風力などに加え新エネルギーとして国に認められるようになりました。柏崎においても利雪に関する様々な取組みがなされており、私も地域ボランティアの一環としてこの活動に参加しております。今年は特に雪の長期保存と雪室(ゆきむろ)製作・補修時の作業性向上を目的に実験を行いました。

大学より南へ約10km、綾子舞の里として知られる鵜川がその舞台です。旧小学校の敷地を利用して高さ5mの雪山を築き、考案した断熱材「もみ殻ふとん(仮称)」をその表面に敷きます。このもみ殻ふとんは我々のオリジナルで、実際の製作には私もミシンを踏みました。また、大学の研究室では雪室の温度・湿度計測やカメラ画像による形状認識などを行っており、4年次学生が年内にその成果をまとめる予定です。

今年は、春先の暖かさや雨による侵食など融雪防止に気遣う時期もありましたが、この雪を無事9月まで保つことが出来ました。また、先日、雪室で貯蔵した日本酒を試飲する機会があり、その席で貯蔵酒に対する良い評価を耳にして、感激も致しました。実験にご尽力頂いた多くの方々に感謝するとともに、今後もこうした活動を通して地域社会に貢献していきたいと思ひます。

情報電子工学科 助教授 佐 藤 栄 一



仮設雪室のようす 2002年3月24日



雪室で貯蔵した日本酒を試飲 2002年10月18日
(左: 佐藤、右: 原酒造(株) 原社長)

課外海外研修

本学では、毎年夏休みに韓国と中国への課外海外研修を実施しています。今年度行われたそれぞれの研修について報告します。

〈韓国〉

8月21日（水）から26日（月）までの6日間、学生10名と教職員2名が参加して行われました。

2日目には本学と友好関係にある建国大学を訪れ、日本の工学部に当たる工科大学の学長、学生たちと交流を深めました。韓国の大学では通常2月に卒業式が行われますが、徴兵制度による復学者などのためにこの時期にも行います。卒業式当日に訪れた本学一行は、同学内に立ち並ぶ花売りの露天や写真屋などを横目に、日本では味わえない雰囲気を実感しました。

3日目はソウル近郊の「木芽仏教博物館」と水原にある「韓国民族村」を見学、4日目は板門店を視察しました。

5日目の25日（日）は終日自由行動。建国大学の学生たちにソウル市内を案内してもらったグループもあったようです。

最終日の26日（月）はホテル近くの景福宮・国立民族博物館と、韓国国民が大いに湧いたソウルワールドカップスタジアムなどを見学した後、たくさんの思い出やお土産とともに仁川国際空港から新潟空港へ向けて飛び立ちました。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/korea02.htm>〕

〈中国〉

中国へは9月2日（月）から9日（月）までの7泊8日間の日程で行われ、学生19名と教職員3名が参加しました。

研修は前半が北京、後半がハルビンを拠点とし、北京では、天安門広場や人民大会堂、万里の長城などの観光スポットを視察。夜には北京ダックに舌つづみを打ち、京劇を堪能しました。

5日目の6日（金）からは、本学と交流のあるハルビン理工大学を訪問。学内の施設や研究室を見学した後、「中日大学生友好懇親会」では同大学の学生から熱烈的な歓迎を受けました。双方ともすぐに打ち解け、隠し芸を披露したり住所やメールアドレスを交換して盛り上がりました。

現地での見学最終日となる8日（日）は、黒龍江省民族博物館で文廟（孔子を祀る廟・最も完全な古代建築を模倣した建物）を見学。夜はハルビン理工大学への答礼晩餐会を行い、再び両大学の学生同士が楽しいひとときを過ごしました。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/china02.htm>〕



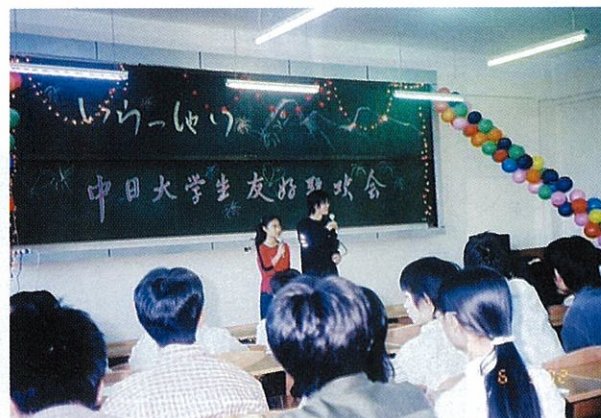
建国大学工科大学（工学部）校舎の前で
（前列左端が案内役の李副教授）



軍事境界線上にある板門店



ハルビン理工大学の前で



交流を深めた中日大学生友好懇親会

オープンキャンパス2002

衣服がまとわりつく蒸し暑さのなか、オープンキャンパスが7月27日（土）、県内外から200名を超える高校生、父母、一般市民が参加して盛大に行われました。参加者が200名を超えたのは3年連続となり、約300名収容の大講義室は熱気に包まれていました。

当日は挨拶に続き、機械制御システム工学科の寺島正二郎助教授が、大学の概要や各学科の紹介を行いました。次いで平成15年度入試説明と続き、特に推薦入試の説明では、皆さん真剣な表情でメモをとっていました。

本学のオープンキャンパスでは「体験コース」（模擬実験）が目玉となっていますが、学生食堂（通称“学食”）の体験を楽しみに参加された方も多いことでしょう。定食やカレーライス、麺類など好きなメニューが無料で選べるとあって、友達や両親と相談しながら列に並んでいました。

午後からはおまちかねの「体験コース」。希望の学科に分かれ模擬実験を体験しました。始めは日頃見慣れない設備、機器に戸惑い気味でしたが、先生や先輩の丁寧なアドバイスにより、すぐに要領をつかんでいました。

体験コースとは別に、まだ希望の学科が決まっていない方、同伴のご父母の方を対象とした見学コースと、入試相談コーナーでは個別相談が並行して行われました。

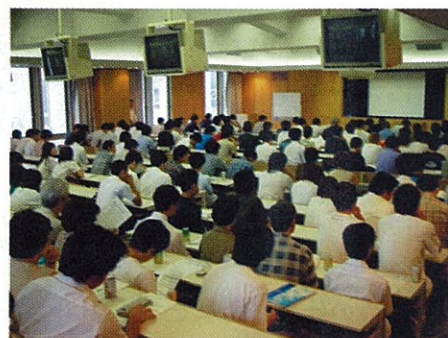
見学コースでは、担当職員が学内の要所をツアー形式で案内しましたが、何しろ外は猛暑、アップダウンの多い学内のツアーはよい運動になったことでしょう。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/opencampus.htm>〕

〔個別見学のご案内〕

オープンキャンパスに参加できなかった方、これから学内をご覧になりたい方には個別の見学を受け付けています。見学は平日の午前9時から午後5時の間で、事前に電話で連絡のうえお越しください。

（入試係 0257-22-8188）



大講義室を埋めつくす参加者のみなさん



模擬実験の前に先輩から説明を受ける
（機械制御システム工学科）

柏崎高校 1 年生が一日体験入学

7月30日（火）、新潟県立柏崎高校の自然探究コース1年生41人が、一日体験入学で本学を来訪、4学科の授業を体験しました。

この体験入学は、同校の探究コースのうち、理数系希望者（自然探究コース）の生徒を対象に、夏期集中講義「自然探究特論」の一環として実施されているもので、昨年に続いて2回目となります。

授業の内容は高校生向けにわかりやすくアレンジしたものでしたが、冷房の効いた教室で大学生の雰囲気を感じ、有意義な一日となったようです。

各学科のテーマ、講師は以下のとおりです。

【機械制御システム工学科】 「プラスチックのリサイクル」 担当：佐伯暢人助教授

【情報電子工学科】 「インターネットによる情報検索」 担当：角山正博教授、佐藤栄一助教授

【物質生物システム工学科】 「海産物の薬理活性」 担当：秋元正道教授

【建築学科】 「パソコンを使った建築設計体験」 担当：飯野秋成助教授、富永禎秀助教授

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/hakko.htm>〕



卒業生の職場を訪ねて②

株式会社 創風システム 藤田 星 寛 さん

(情報電子工学科2000年3月卒業)

今回は、市内鯨波にある創風システムに勤める藤田星寛さんを訪ねました。創風システムは、プログラムの開発やインターネット・プロバイダーサービスを主な業務としています。



-----今は、どのような仕事をしているのですか。

藤田：私は、販売管理や顧客管理のためのソフトウェア開発に携わっています。利用者によって、使用環境や使い方が違うので、一人ひとりの利用者にあわせた製品を作っています。

-----どんなところが面白いですか。

藤田：ソフト開発は、新しいものをつくるのが面白いですね。使い易く、表示も見やすい、使う人に優しい製品を作っていこうと心がけています。

-----今の仕事に大学での勉強は役立っていますか。

藤田：卒業研究で使ったプログラム言語を用いて開発しているので、その面では役に立ちました。データベースとプログラムの連携をもっと勉強しておけばよかったと思っています。

-----そうですね。数年前までは、ぴったり対応する科目がありませんでしたが、今はカリキュラムを改正して、データベース関連の科目を開講し、力を入れて取り組んでいます。ところで、日常の生活は学生時代と大分変わりましたか。

藤田：大学時代と同様に自宅から通っていますので、大きくは変わっていません。ただ、今は社会人で残業もあるので、体調を崩さないよう気をつけています。

-----それでは、これからの抱負をお願いします。

藤田：新しい技術を積極的に身につけていきたいと考えています。技術職は、技術がメインですから、これをやるんだと思ったら、それに向かって努力することが大切だと思います。

-----どうもありがとうございました。たまには、大学にも来てくださいね。

藤田：大学祭には、友達を誘ってお邪魔したいと思います。サークルの発表に顔を出したいですね。

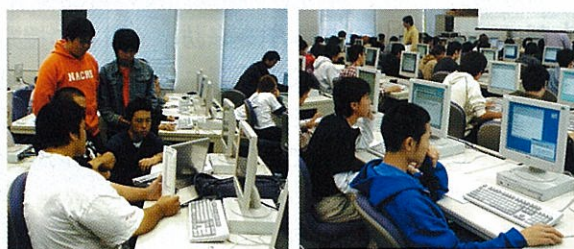
実は、藤田さんは私（聞き手）の研究室の出身です。2年経って、やはり社会人らしくなったと感じました。取材の打ち合わせの際、上司の方にも「藤田君は真面目な態度で好感が持てる」との評判でした。

〔創風システム <http://www.sofu.co.jp/>〕

(平成14年10月23日訪問。聞き手 情報電子工学科 教授 田村 裕)

計算機実習室を一新

計算機実習室のパソコン130台が新しくなりました。コンピュータ本体だけでなく、ディスプレイも15.7インチ液晶を導入し自由空間を確保、更に利用しやすい環境になりました。



また、今回新たに、東京大学でも採用されているMetaFrame（メタフレーム）というアプリケーションサーバシステムを導入。このシステムではすべての処理はサーバ上で行われるため、利用者側のパソコンの性能やOSに左右されません。

その他、サーバ入れ替えによるセキュリティ強化、教育支援ソフトの導入も併せて行われ、今後も校舎内およびキャンパス内での無線LAN環境整備、インターネット専用回線の増強、校舎内各所にLAN接続ポート設置等を計画しています。学生の皆さんにより良いインターネット環境を提供していきたいと考えています。

計算機システム委員会 布施 信彦

平成14年度公開講座が終わる

毎年、多くの方々から関心をお寄せいただいている本学の公開講座ですが、今年も好評のうちに終了しました。本講座は、教養講座と技術講座の2本立てで開講していますが、技術講座は今回初めて柏崎市以外（上越市）にも会場を設け、より多くの方々にお楽しみいただきました。

〔教養講座〕

演題：二十一世紀日中両文明の距離感—国際関係論のスコープを使って—

講師：判澤純太 助教授

日程：5月30日（木）～ 6月27日（木）全5回 会場：柏崎エネルギーホール

「経済力も備えた政治大国として世界に登場しつつある中国、面貌も新たな中国に日本はいかに対処するのか。いま日本人に適切な距離間隔が求められている」として、世界的視野に立ち、文化的背景、政治的背景のもとに日中関係論を論じました。瀋陽の日本領事館への駆け込み事件があった直後で関心も高く、3回以上受講し「修了証書」を授与された方は、申込者64名のうち57名にも及びました。

〔技術講座〕

演題：快適で安全な地域の住まい

講師：建築学科教員

☆上越会場（上越市市民プラザ）

日程：6月20日（木）～ 7月18日（木）全5回

☆柏崎会場（柏崎エネルギーホール）

日程：10月3日（木）～ 10月22日（火）全4回

地域の気象、風土を考究し、快適な住まいづくり、まちづくりについて身近な話題とともに論じました。一般市民の皆様はもちろん、建築士会の皆様、建設業にたずさわる皆様のご来場も頂き、話題は基礎から専門分野にまで及びました。「修了証書」を授与された方は、上越会場で35名、柏崎会場で56名でした。なお、この講座の広報には、上越市および柏崎市を初め両市の建築士会、商工会議所建設部会のご協力をいただきました。この紙面をお借りして御礼を申し上げます。



判澤助教授による教養講座（6月27日）

学会報告

日本エム・イー学会 甲信越支部・北陸支部合同大会

本学において8月31日（土）に、「日本エム・イー学会 甲信越支部・北陸支部合同大会」が開催されました。日本エム・イー学会は、医学・生物学と工学の境界領域である「生体医工学」（ME = Medical Engineering）に関して国内の基幹となる学会です。従来は甲信越支部（新潟・長野・山梨）と北陸支部（富山・石川・福井）とが個別に支部大会を開催していましたが、本年、両支部が初めて合同大会を開催することとなり、新潟工科大学でお世話させていただきました。

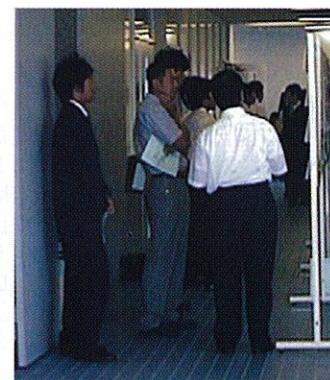
学会は、シンポジウム、特別講演、および一般講演で行われました。シンポジウムは、「ME研究テーマの発掘」と題して、新潟大学工学部教授の牧野秀夫先生の基調講演と、甲信越・北陸の若手研究者によるさまざまな活動が報告されました。特別講演は、金沢工業大学・人間情報システム研究所所長の鈴木良次先生より、「延命ではなく、良く生きるためのテクノロジーとは」という演題で、ご講演頂きました。また一般講演は、44件の発表がポスターセッションにて発表されました。本学関係では、「家庭用赤外線リモコンを用いた福祉機器操作のための基礎的検討」、「体内植え込み型装置における共振型通信方式—受信プローブと検出方法の改良」の2件の発表がありました。なお、詳細はホームページ（<http://www.niit.ac.jp/iehtml/ie/me02/>）でも公開しています。

今回の合同大会の会場として新潟工科大学が選ばれた理由は、6県のほぼ中央に位置するという立地のよさもありますが、その他に、生体医工学の研究が本学で盛んであるということもあります。これからも、関連のさまざまな学会・研究会が開催されると思います。一般市民向けの企画を行う場合もありますので、その折には興味をお持ちの皆様にお越し頂けたら、幸いです。

情報電子工学科 教授 村上 肇



シンポジウム「ME研究テーマの発掘」
（本学情報電子工学科 佐藤栄一助教授）



一般講演（質問に答える本学学生）

初の博士号を授与

秋晴れの9月25日（水）、大学院博士後期課程を修了した施鑑修さんに博士の学位が授与されました。平成13年に開設された博士後期課程の第一期生としては、初の学位取得となります。通常、同課程は修業年限が3年となっていますが、今回の施さんは研究業績が優れていたことが認められ、通常の半分の期間での取得となりました。

台湾出身の施さんは、1988年3月に早稲田大学理工学部電子通信学科を卒業後、日本や台湾でICの設計研究開発に従事。本学大学院に入学した2001年からは、学業の傍ら、KeyStream(株)の専務取締役として通信関連技術の導入、研究開発に携わり、この間は会社のある東京と柏崎を往復していました。

本学での1年半について施さんは、「外国人ながら最後まで勉強することができ、しかも学位も取れた。先生方には感謝しており一生の思い出になる」と感慨深く話していました。

今後について施さんは、「(研究指導教員だった)佐藤先生と相談しながら、産業界の必要とする情報について研究し、工科大学にも貢献したい」と熱く語っていました。

施さんは9月13日（金）に行われた学位論文発表会で、携帯電話などの移動無線通信システムのサービス向上として、高速で移動する際に基地局間で電波を途切れないようにしたり、増大する加入者の容量を確保するための研究成果を発表していました。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/doctor02.htm>〕



研究指導教員の佐藤拓朗教授（左）と施さん



佐伯助教授が日本機械学会より表彰

機械制御システム工学科の佐伯暢人助教授が、日本機械学会機械力学部門・計測制御部門2001年度オーディエンス表彰を受けました。これは、同部門主催のDynamics and Design Conference 2001における優秀発表者に贈られるもので、論文名は「粒状体衝撃ダンパの制振効果」でした。

編集後記

早いもので創刊号から半年が過ぎ、もう冬の入り口のような毎日となりました。NIIT広報第2号は、いかがでしたでしょうか。今回から通常号となり、この半年間の出来事をお伝えすることになりました。大学での出来事を紹介するだけでなく、地域や社会との繋がりにも注目した編集を心がけたつもりです。よりよい広報誌とするため、ご意見をいただければ幸いです。

なお、大学のホームページには旬の記事が載りますので、こちらもご覧いただければと思います。
(田村)

発行

新潟工科大学広報誌 第2号
平成14年11月15日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195

新潟県柏崎市藤橋1719

TEL.0257-22-8111（代表）

FAX.0257-22-8112

E-mail:gakusei@adm.niit.ac.jp

URL:<http://www.niit.ac.jp/>